

◎非常災害時に備えた

消防・防災コミュニティセンターの建設と 国道八号線交通渋滞解消へとつながる 愛知川への新橋建設の対応は!!

◎愛知川左岸道路を活用した

日本列島横断道路構想は!!

提案内容 その1

東近江管内から提案要望のあります三重県と滋賀県を結ぶ国道421号線の県境トンネル「イングリッド道路」は昭和57年に江勢道路「八風街道」が国道に昇格以降 関係する沿線3市1町で構成の整備促進期成同盟会は 国土交通大臣にも直接要望活動をされ 国の直轄事業として本年度中にトンネル本体工事に着手される見通しが強まったと聞き及んでいます

しかし 近畿地方整備局は交通量予測調査から危険物搭載車両が多く5キロ以上だと計画トンネルの規格に適合しないとして 若干短くなったとも聞いていますがトンネルが開通すると名神高速道路と東海環状道路を結ぶ主要幹線道路となりますが 滋賀県の五本の柱の一つであります「たくましい経済圏づくり」のためにも この県境トンネルを契機に大きく前進した構想=日本列島本土横断道路・日本海と太平洋を結ぶ道路へと15年度予算枠の5000万円を調査設計研究費に活用できないものか 将来的には国家的事業へと発展していただけるものと確信し提案いたしました

日本列島の本土横断道路構想により 日本海と太平洋が結ばれ 滋賀県は観光面は勿論のこと農業県から工業県へと発展し 県の財政面や雇用の創出等々に計り知れない発展が予測されます また 私たちの住む東近江地域や湖東地域から西九州(高島町または安曇川町)方面へ行く場合 琵琶湖のある関係で北まわりか琵琶湖大橋経由か どちらにしても昨今の車社会の中であっても1時間以上かかり 夏の水泳シーズンともなれば 場合によっては2時間近くかかり 常に愚案しなければならぬ不便さがつきまわっており この不便さの問題もこの構想により解消されます

ルートの一つとして 東近江管内からは愛知川左岸道路の整備促進と県道昇格等々の要望も早くから整備促進協議会から出されております この左岸道路は永源寺町から八日市市を通り五箇荘町を経て能登川町へのルートであり 能登川町の湖岸地先からびわこを湖中トンネルまたは橋梁にて横断し 西九州(高島町または安曇川町)へあり 朽木村から福井県小浜方面へ通ずる路線が考えられ このルートの構想により愛知川左岸道路の整備促進の要望事項やこれに付随する要望事項も順次取り組まなければならない方向へと一挙両得であると思えます

もう一つの考えは 国道421号線を近江八幡市から安土方面へ延長し 大中の湖干拓地を通り びわこを横断 西九州から福井県へと通ずるルートであります

いずれにいたしましても このような構想の中で東近江地域の合併問題も特例債等々の特例処置期限もありますが 滋賀県としての大きな視野にたった合併指導を期待すると共に 昨今の経済状況等々から これからの滋賀県の発展を考えれば この構想は大きな意味を持つものと思えます 年次的な予算配慮のもと 国家的事業へと発展するようご配慮ご検討をお願いいたします

阪神淡路大震災から早や8年が経過し いつ発生するか判らない自然災害に対して その感覚が薄れてきているように思います 関係機関等々の皆さんは非常時に備えてそれなりに訓練等々を行っていただいておりますが 安心はしているものの 一般家庭では中々 非常時に備えた非常食の準備が出来ておられないのが 大半ではなからうかと思えます

昨今 いつやっ来てもおかしくないと思われております東海地震に備えての諸般の記事が日々新聞紙上等々で掲載されております

県内のいくつかの自治体では 阪神淡路大震災以降いち早く 非常時に備えた非常食の準備等々をはじめとする消防防災コミュニティセンターが設置されていますが 滋賀県の5本の柱の一つであります「暮らし安心県」づくりのためにも 滋賀県としての消防防災コミュニティセンターの設置を切望いたします

設置場所としては 滋賀県のほぼ中心地域となる滋賀県消防学校付近は すぐそばにある通称和田山・長勝寺神郷山一帯は岩盤も固く災害時を想定した場合の適地ではないかと私は思います 併せて 非常時に威力を発揮するヘリコプターの訓練も常に愛知川左岸・能登川地先の河川敷で実施されている関係から 現在 日野にあるヘリコプター基地の移転も考えるべきではないかと思えます

尚 滋賀県消防学校に関する下記の件もよろしくお願いたします

1. 滋賀県消防学校の道路案内表示は 県道栗見・八日市線および県道大津・能登川・長浜線や国道8号線にはありません 設置されているのは県道能登川町佐生・今線に1ヶ所のみでありますがこの1ヶ所は学校の見える しかも すぐそばにあり 私は常々不合理ではないかと思っております 主要幹線道路への設置をお願いします
2. 滋賀県消防学校前の道路は県道ではありません 能登川町の町道であります 県の施設が県道に面していないのは不自然であると思えます また 国道8号線から滋賀県消防学校へと通ずる愛知川左岸道路は 県道として昭和57年に認定はされていますが すでに県道としての供用開始となっていません しかも この左岸道路は大型ダンプ車の通行が多く 損傷が激しく 常に五箇荘町と能登川町の町道扱いとなっております関係から 両町の町費で道路改修舗装工事が繰り返されています 県当局のお考えは・・・何とも思われませんか 前段の愛知川左岸整備促進要望事項内にもあり 早急な県道昇格が当然と考えられます 早急な対応をお願いします
3. 昨今の国道8号線愛知川・御幸橋の両サイドは通行車両が多く 交通渋滞が常に発生いたしております 渋滞解消のため県として国へのバイパス案もあろうかとありますが 車社会の地域住民の方々の利用状況から 滋賀県消防学校前・能登川町神郷地先から愛知川を挟んで 愛知川町長野原のいは川原村に向けての新橋は非常災害時の諸般の対応面からも不可欠な状況であり すでに 愛知川を挟む彦根市・湖東町・愛東町・愛知川町・秦荘町・能登川町・五箇荘町の1市6町で「(仮称)能登川彦根線道路促進期成同盟会」も設置していただき 同会からもすでに新橋の要望も出されています 早急な対応をお願いします

夢のある
将来のまちづくりをめざします。

滋賀県の回答(検討結果)

受付番号	92(2)
事業の名称等	県消防防災コミュニティセンターの設置
検討結果	今後実施検討
検討結果の概要	県民の生命、身体および財産を災害から守るため、誰もが安心できる「暮らし安心県」づくりに努めているところです。ご提案の防災コミュニティセンターについては、県災害対策本部室、情報伝達設備や備蓄物資の保管等を含めた「防災センター構想」を検討してきました。このうち、災害対策本部室と防災情報システムは整備済みであり、備蓄物資の保管は民間施設を活用して対応しておりますので、防災センターとしての必要な機能は既に整備されていると考えています。 しかし、琵琶湖西岸断層帯を震源とする地震のおそれという新しい状況に対応し、防災センター構想について引き続き検討してまいります。 なお、日野町にある防災ヘリコプターの基地についても、現在は移転を考えていません。
検討担当課(内線)	総合防災課(3432)

受付番号	92(3)
事業の名称等	滋賀県消防学校付近の整備等
検討結果	対応困難
検討結果の概要	まず、事業①については、道路標識で案内する施設は不特定多数の人が利用する交通施設、文化施設、観光施設等の公共施設に限定しており、市町村職員等限られた人が利用する本施設は対象と考えておりません。 また、事業②については、県では平成14年度に、限られた財源を有効に、かつ効率的に活用するため道路整備マスタープランや各事業の整備効果等を評価する客観的評価マニュアルを作成しました。 現在この方針に沿って今後10年間の道路整備アクションプログラムを策定しており、ご提案のルートについても、県全体の道路整備の優先順位、予算等を勘案して位置づけできるか東近江建設管理部と検討しているところです。 なお、事業③については、県道大津能登川長浜線の能登川町今地先から国道8号の五箇荘町梁瀬地先に至る愛知川左岸道路については、県道認定に向け、現在手続を進めています。
検討担当課(内線)	道路課(4134)

受付番号	92(1)
事業の名称等	日本列島本土横断道路の調査設計研究
検討結果	実施中
検討結果の概要	道路は、造ることが目的ではなく、どのように使うか、活かすかが重要と考えており、ご提案の日本海と琵琶湖、さらには太平洋を結ぶ国土横断軸については、産業、観光面で意味がある道路と認識しています。現在、北陸自動車道、名神高速、整備中の第二名神高速と三重県の名阪国道等を連絡する「名神名阪自動車連絡道路」の整備について、国や三重県と一緒に「名神名阪連絡道路検討委員会」を組織して検討しているところです。
検討担当課(内線)	道路課(4132)

すわ一男後援会 TEL 48-2296 FAX 48-5535 皆様のご意見ご要望をお寄せ下さい。